

虐待対応状況（虐待形態は認定結果を記載しています。）			
●高齢者虐待 46件（ただし、同一人物への対応が複数回ある場合は1件にまとめています。）			
申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
警察	配偶者	ネグレクト 心理的	<p>対象者は70歳代・要介護認定なし。 近隣住民が自宅前で立っている対象者を発見、家にいる配偶者に声を掛けるも「放っておいたらいい」と対応しなかったため、近隣住民が警察に通報し、警察が対象者を保護した。</p> <p>ネグレクト・心理的虐待として認定。 対象者は要介護認定を申請し、別居の子の協力もあり、デイサービスを利用するようになり、配偶者の介護負担が軽減された。</p>
警察	配偶者	身体的	<p>対象者は80歳代・要介護認定なし。 警察が自宅訪問した際、数日前に配偶者と口論し、対象者が配偶者に叩かれたり、引っ掻かれたと話した。</p> <p>身体的虐待として認定。 その後も配偶者からの暴力行為があり、対象者はホテルに避難。配偶者は精神科病院に入院し、退院後は夫婦で他市に転出した。</p>
地域包括支援センター	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は70歳代・要介護認定なし。 対象者が配偶者に突き飛ばされ、頭部打撲で救急外来を受診したと、医療機関から地域包括支援センターに連絡があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 配偶者は自宅を出てホテル暮らしをすることになった。その後対象者は妄想がひどくなり、精神科病院に入院した。退院後、夫婦で他市に転出した。</p>
匿名	施設従事者	身体的 ネグレクト 心理的	<p>施設従事者による入所者に対する不適切な対応（身体拘束や暴言等）が行われていると、通報があった。</p> <p>身体的虐待・ネグレクト・心理的虐待として認定。 入所者や施設従事者から聞き取り調査を実施。 複数の施設従事者による暴言、ナースコールの取り上げ、徘徊のある入所者の部屋の施錠等があった。 施設に対し、改善計画書の作成・提出を依頼、改善計画書が提出された。</p>
本人	孫	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護認定なし。 対象者から、同居の孫に物を投げられたり、叩かれたりしていると、地域包括支援センターに相談があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者は、同居の子とともに別居の子宅に避難し、現在も別居の子宅で安全に生活している。 孫の支援については、関係部署と連携し、見守りを継続している。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
ケアマネジャー	配偶者	身体的	<p>対象者は90歳代・要介護4。 ケアマネジャーから、施設の夫婦部屋に入所中の対象者が、配偶者から叩かれたり、つねられたりしていると、地域包括支援センターに相談があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 朝食時に訪問介護を利用することで、配偶者の介護負担が軽減した。その後、対象者は療養型病院に入院となり、配偶者のみ施設に入所となった。</p>
ケアマネジャー	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護2。 ケアマネジャーから、対象者の腕や手に配偶者が原因の出血痕があるとデイサービスから相談があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 訪問介護の利用や施設入所を提案するも、配偶者は拒否。その後、対象者は施設に入所した。</p>
ケアマネジャー	子孫	身体的 ネグレクト 心理的	<p>対象者は90歳代・要介護2。 対象者が利用しているデイサービスからケアマネジャーへ、対象者の肩や腕に内出血があると報告があり、ケアマネジャーから地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・ネグレクト・心理的虐待として認定。 同居の子の協力が得られ、デイサービスの利用回数を増回した。 その後、別居の子らの協力もあり、対象者は施設に入所した。</p>
ケアマネジャー	子	身体的 心理的	<p>対象者は70歳代・要介護5。 ケアマネジャーから、対象者が同居の子に頭をたたかれたと相談があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 家族で話し合い、施設入所を希望していたが、対象者は身体状況の悪化により、入院した。</p>
ケアマネジャー	配偶者	身体的	<p>対象者は90歳代・要介護1。 ケアマネジャーから、対象者が自宅で配偶者に頭部を叩かれていたとデイサービス職員から連絡があったと、通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 配偶者の介護負担軽減のため、対象者の訪問介護の利用回数を増回した。配偶者の入院後、対象者は施設に入所した。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
本人	配偶者	身体的 心理的	対象者は60歳代・要介護認定なし。 対象者から、配偶者からの暴力行為があると地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 配偶者は精神科病院に入院となり、対象者は安全に生活をする事ができている。退院後、配偶者は施設入所予定。
親族	子	ネグレクト 心理的 経済的	対象者は70歳代・要介護認定なし。 親族から、対象者夫婦が同居の子に通帳や年金を管理され、食事もとれていない状態にあると、市へ相談があった。 ネグレクト・心理的虐待・経済的虐待として認定。 別居の子、司法書士、地域包括支援センターなどが同居の子を説得、対象者は他県の親族宅に避難した。その後、他市で生活している。 別居の子らが、残された子の状況確認をしている。
親族	子	ネグレクト 心理的 経済的	対象者は60歳代・要介護認定なし。 親族から、対象者夫婦が同居の子に通帳や年金を管理され、食事もとれていない状態にあると、市へ相談があった。 ネグレクト・心理的虐待・経済的虐待として認定。 別居の子、司法書士、地域包括支援センターなどが同居の子を説得し、対象者は他県の親族宅に避難。その後、他市で生活している。 別居の子らが残された子の状況確認をしている。
子	配偶者	身体的 心理的	対象者は70歳代・要支援1。 同居の子から、対象者が配偶者と口論になり、配偶者から顔を殴られたと、地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者夫婦はともに依存心があり、離れて暮らすことは拒否され、家庭内別居の状態でご経過している。
本人	配偶者	身体的 心理的	対象者は80歳代・要介護認定なし。 対象者から、配偶者に新聞紙を丸めたもので腕を殴られ内出血ができたと、地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者は、別居の子の支援で他市に転出した。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
警察	配偶者	心理的	<p>対象者は80歳代・要介護1。 配偶者から、対象者と口論になり、配偶者に「出て行け」と言われた対象者が出て行ってしまったと、警察に通報があった。</p> <p>心理的虐待として認定。 対象者には訪問看護の利用を再開、配偶者には福祉用具のレンタルを導入した。月1回の地域包括支援センターの訪問と民生委員の見守りを継続し、その後、対象者は他市施設へ入所した。</p>
ケアマネジャー	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要支援2。 ケアマネジャーから、対象者が配偶者に首を絞められたと家族から連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 配偶者は精神科受診するも入院にはならず、施設に入所した。対象者は、別居の子の支援でホテルに避難後、自宅に戻った。</p>
ケアマネジャー	子	-	<p>対象者は80歳代・要介護1。 ケアマネジャーから、対象者の胸部に皮下出血を発見したと利用しているデイサービスから連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>虐待とは判断できず。 対象者と同居の子から聞き取りしたが、あざができた状況を確認できなかった。 対象者の介護サービスの内容を見直し、利用サービスを増やすことを同居の子に提案した。 その後、対象者は骨折のため入院し、退院後は施設へ入所した。</p>
警察	配偶者	身体的	<p>対象者は90歳代・要介護1。 「配偶者にしばかれる」との対象者の声を窓越しに聞いた近隣住民から、警察に通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 対象者には介護サービス利用を勧めるとともに、配偶者には「男性介護者のつどい」を案内するが、配偶者の拒否により利用につながらず。 地域包括支援センターが定期的に介入し、配偶者の介護負担の軽減を図っている。</p>
子	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護1。 別居の子から、対象者が配偶者から暴行を受けていると、地域包括支援センターに連絡があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 配偶者は緊急逮捕され、精神科病院に措置入院となった。 対象者は骨折で救急搬送され入院となり、その後、別の病院に転院した。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
ケアマネジャー	配偶者	身体的 ネグレクト	対象者は60歳代・要介護3。 ケアマネジャーから、対象者の手首にあざや内出血があると、地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待・ネグレクトとして認定。 対象者は施設に入所し、配偶者の介護負担は軽減された。 配偶者は自立しており、何かあれば地域包括支援センターへ相談するよう案内している。
ケアマネジャー	配偶者	身体的 心理的	対象者は80歳代・要介護2。 ①ケアマネジャーから、対象者の腕にあざがあると利用しているデイサービスから連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 ②ケアマネジャーから、対象者の足にあざがあると利用しているデイサービスから連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。 身体的虐待として認定。 配偶者の介護負担軽減のため、「男性介護者のつどい」を案内、対象者の施設入所やショートステイ利用を提案。 対象者は、ショートステイを利用後、精神科病院に入院となった。退院後は、施設入所を検討している。
孫	子	心理的	対象者は80歳代・要介護2。 対象者から別居の孫に、同居の子に背中を叩かれたと連絡が入り、別居の孫から通報があった。 心理的虐待として認定。 対象者にはあざや傷はなかったが、日頃から同居の子からの暴言があり、対象者の気力が落ちていた。 同居の子には「男性介護者のつどい」を案内し、対象者にはデイサービスの利用を勧め、その後、同居の子とのトラブルも減った。
本人	子	身体的 心理的	対象者は70歳代・事業対象者。 対象者から、同居の子に腕を強く掴まれたと、地域包括支援センター職員が聞き取った。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 何かあれば、対象者は別居の子宅にいつでも避難できる体制を確保した。 対象者は要介護認定を申請し、デイサービス利用になった。

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
家族	施設従事者	心理的	<p>対象者は70歳代・要介護3。 対象者の家族から、施設従事者からの暴言があり、対象者が施設従事者を怖がっていると施設に相談があった。</p> <p>心理的虐待として認定。 すでに対象者は他市の施設に転所しており、対象者の家族、施設従事者及び利用者から聞き取り調査を行った結果、施設従事者からの暴言が確認できた。 施設に対し改善計画書の作成・提出を依頼し、施設から改善計画書が提出された。</p>
警察	子	身体的	<p>対象者は70歳代・要介護認定なし。 対象者から、別居の子に頭部を平手打ちされたと、警察に通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 対象者は他県の別の子宅に避難した後、転居した。</p>
ケアマネジャー	子	身体的 心理的	<p>対象者は90歳代・要支援2。 ケアマネジャーから、対象者が同居の子に暴力を振るわれたと相談があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 もともと子との関係は悪かったため、対象者は、他市の施設に入所した。</p>
警察	子	身体的 心理的 経済的	<p>対象者は70歳代・要支援1。 対象者の配偶者と別居の子が喧嘩しており、自宅に戻れないので保護してほしいと、対象者が警察に通報し、警察から市へ連絡があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待・経済的虐待として認定。 別居の子は、日頃から対象者夫婦に対して金銭を要求したり、大声で怒鳴ったり、包丁を持ち出すことがある。 保健所医師から別居の子に対する助言を受け、対象者の配偶者から別居の子に対してお金に困っていることを伝え続けている。</p>
匿名	施設従事者	-	<p>施設従事者が複数の入居者に対して、食事介助や排せつ介助をせず、放置するなどの行為があると、市へ通報があった。</p> <p>虐待として認定せず。 入居者や施設従事者の面談や聞き取り調査から、虐待を行った疑いのある施設従事者について、以前から勤務態度に一部問題があったものの通報内容の事実は確認できなかった。</p> <p>施設に対し、施設従事者の虐待に関する意識向上につながる対策を講じるよう依頼した。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
子	配偶者	身体的 ネグレクト	<p>対象者は80歳代・要介護認定なし。 別居の子から、対象者に手を上げたと言ったと配偶者から連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待・ネグレクトとして認定。 対象者は最近認知症が進行しており、要介護認定を申請中で、配偶者の介護負担が大きくなっていた。 今後はデイサービス利用を勧め、配偶者の介護負担軽減を図って行く予定。</p>
警察	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は60歳代・要介護認定なし。 対象者から、夫婦間で口論になり、配偶者から包丁を突きつけられたと、警察に通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 配偶者は認知症で、最近を対象者に対して怒ることが増えており、ケアマネジャーが配偶者のデイサービス利用の増回を調整し、対象者の介護負担が軽減した。</p>
ケアマネジャー	配偶者	身体的	<p>対象者は80歳代・要介護認定なし。 配偶者のケアマネジャーから、配偶者が突然拳で殴りかかってきたので助けてほしいと対象者から連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 配偶者に認知機能低下がみられ、配偶者の介護サービス利用の増回により、対象者の介護負担は軽減している。</p>
ケアマネジャー	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護2。 ケアマネジャーから、対象者の前頭部に切り傷があると利用している訪問看護から連絡があったと、地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>身体的虐待、心理的虐待として認定。 配偶者は入院治療が必要な状態であるが、介護者である対象者が配偶者の受診を拒否し、対象者の介護負担が増大した。その後、配偶者自身が精神の内服薬を開始し、配偶者の生活が活動的になったことから、対象者の状態も落ち着いている。</p>
本人	配偶者	身体的	<p>対象者は70歳代・要介護2。 対象者から、配偶者が暴れて暴力を振るっているのですぐ来てほしいと、市に通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 配偶者は家族付き添いのもと、精神科病院に入院となった。 対象者は自立しているので、何かあれば地域包括支援センターに連絡いただくよう伝えた。 配偶者は入院を継続しており、退院後は施設入所を検討している。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
子	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は70歳代・要介護認定なし。 別居の子から、夫婦で口論になり、対象者が配偶者を叩き、スカーフで首を引っ張ったと、地域包括支援センターが聞き取った。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者は家族付き添いのもと、精神科病院に入院となった。 配偶者は自立しているので、何かあれば地域包括支援センターに連絡いただくよう伝えた。 対象者は入院を継続しており、退院後は施設入所を検討している。</p>
ケアマネジャー	子	ネグレクト 心理的 経済的	<p>対象者は70歳代・要介護5。 ケアマネジャーから、対象者が同居の子から暴言を吐かれていると、地域包括支援センターへ通報があった。</p> <p>ネグレクト・心理的虐待・経済的虐待として認定。 同居の子は、精神科病院に入院したが、現在は退院し、施設に入所している。 対象者は、別居の子らの支援により、ロングショートステイを利用している。</p>
ケアマネジャー	子	ネグレクト	<p>対象者は80歳代・要介護3。 ケアマネジャーと訪問看護で対象者宅を訪問、不衛生かつ食事摂取が不十分であり、服薬もできていない様子を確認したと、地域包括支援センターへ通報があった。</p> <p>ネグレクトとして認定。 介護者である別居の子は、精神的に不安定な状態であるが、地域包括支援センター、市、ケアマネジャーが連携し、対象者宅の環境整備と、別居の子の介護負担軽減に向けた必要な介護サービスの導入ができた。</p>
地域包括支援センター	子	ネグレクト	<p>対象者は70歳代・要介護1。 地域包括支援センターから、対象者は長年入浴ができておらず清潔が保たれていない状態であり、同居の子に介護サービス利用を勧めるも、土壇場で同居の子がキャンセルしてサービス導入に至っていないと、相談があった。</p> <p>ネグレクトとして認定。 地域包括支援センター、市、ケアマネジャーが連携し、対象者のショートステイ利用を勧め、その後、訪問看護が導入できた。 同居の子には、就労希望等を聞き取りながら、担当部署が支援を継続する。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
ケアマネジャー	子	ネグレクト 心理的 経済的	<p>対象者は90歳代・要介護3。 対象者が、徘徊で警察に何度も保護された時、交差点を赤信号で渡り保護された時、頭部挫傷で救急搬送された時、いずれも同居の子は警察からの連絡に出ない状態が続いていると、ケアマネジャーから地域包括支援センターに通報があった。</p> <p>ネグレクト・心理的虐待・経済的虐待として認定。 市、地域包括支援センターが自宅を訪問し、対象者の状態を確認するとともに、同居の子に施設入所やデイサービス利用の増回などを提案するも拒否。 その後、対象者は状態悪化により入院となった。</p>
警察	配偶者	身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護認定なし。 対象者から、配偶者が杖を振り回していると、警察に通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 地域包括支援センターが配偶者の受診に同行。 配偶者は服薬コントロールによって暴力や暴言はなくなり、デイサービスに通っている。</p>
ケアマネジャー	子	身体的 心理的	<p>対象者は90歳代・要介護3。 ケアマネジャーから、対象者が同居の子から暴力を受けたと、地域包括支援センターへ通報があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者は施設に入所。その後、障害がある同居の子も同じ施設に入所。 2人の成年後見の申立手続をし、保佐人が決まった。今後は他市の施設に2人で入所予定。</p>
匿名	施設従事者	ネグレクト 心理的	<p>施設従事者による複数の入居者への高圧的な発言や、ナースコールの取り上げなどの行為があると、通報があった。</p> <p>施設従事者及び入居者への聞き取り調査から、ネグレクト、心理的虐待として認定。 施設に対し、改善計画書の作成・提出を依頼、改善計画書が提出され、地域包括ケア室で改善内容を確認。計画に従い、改善を進めてもらう。</p>
ケアマネジャー	子	身体的 心理的	<p>対象者は70歳代・要介護5。 対象者から、同居の子から毎日頭を叩かれると、利用している訪問看護とケアマネジャーに相談があった。</p> <p>身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者は吐血により入院したが、在宅復帰が困難な身体状況であるため、親族の支援でホスピスへ転院した。</p>

申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
警察	配偶者	身体的	<p>対象者は70歳代・要介護認定なし。 対象者から、配偶者と口論になり、頭部と腰部を叩かれたと、警察に通報があった。</p> <p>身体的虐待として認定。 対象者は自立しており、今後同様の事態が発生すれば警察に通報するよう説明した。 配偶者は、地域包括支援センターが受診に同行、内服薬の服用ができています。介護サービスの利用はないが、農作業等をしている。</p>
ケアマネジャー	配偶者	ネグレクト 身体的 心理的	<p>対象者は80歳代・要介護1。</p> <p>①対象者が夜間に配偶者から戸外に締め出されたことをケアマネジャーが聞き取り、地域包括支援センターに通報した。 ネグレクトとして認定。</p> <p>②ケアマネジャーから、対象者が配偶者に暴力を振るわれ、隣人に保護されていると別居の子から連絡があったと、地域包括支援センターに通報した。 身体的虐待・心理的虐待として認定。 対象者はショートステイを利用し、今後、ショートステイ中の施設に入所予定。</p>

虐待対応状況（虐待形態は認定結果を記載しています。）			
●障害者虐待 5件			
申出人	虐待者	虐待形態	対応状況
元利用者	施設従事者	—	<p>対象者は40歳代・障害支援区分6 日中活動事業所の施設従事者から対象者への暴言・暴力があると、通報があった。</p> <p>虐待と判断できず。 対象者、施設管理者へ聞き取り調査を実施したが、通報内容の事実は確認できなかった。 今後法人内で同様の事案がないか注視するとともに、同様の事案が発生すれば報告するよう伝えた。</p>
市職員	施設従事者	—	<p>対象者は就学児・障害支援区分なし 日中活動事業所の施設従事者から対象者への虐待があると、通報があった。</p> <p>虐待と判断できず。 対象者の親、施設従事者等に聞き取り調査を実施したが、通報内容の事実は確認できなかった。 このような通報があったことを真摯に受け止め、改善に向け取り組むよう伝えた。</p>
警察	親	—	<p>対象者は20歳代・障害支援区分なし 警察から、親から対象者への虐待があると、通報があった。</p> <p>虐待と判断できず。 対象者は生活保護を申請し、その後、施設に入所した。</p>
相談支援専門員	親	—	<p>対象者は40歳代・障害支援区分3 相談支援専門員から、親から対象者への暴力があると、通報があった。</p> <p>虐待と判断できず。 対象者は精神科病院に入院となり、障害福祉サービスの調整を行い、退院となった。</p>
市職員	施設従事者	—	<p>対象者は50歳代・障害支援区分2 市職員から、日中活動事業所の施設従事者から対象者への虐待があると、通報があった。</p> <p>虐待と判断できず。 対象者及び施設従事者等へ聞き取り調査を実施したが、通報内容の事実は確認できなかった。 このような通報があったことを真摯に受け止め、改善に向け取り組むよう伝えた。</p>